

# 第1回資源管理方針に関する検討会で 整理された検討事項について

---

令和7年3月24日(月)

第2回資源管理方針に関する検討会  
～ベニズワイガニ日本海系群(知事許可水域)～

**水産庁**

## ＜第2回に向けた課題＞

- ① 漁獲量の報告・収集体制について、関係者間で情報共有・検討する場の設定に向けて、今後の進め方について示す。
- ② 提案されている2系ルールによる漁獲管理規則(案)の特性(※)を踏まえた管理の工夫について、必要に応じて研究機関に追加試算を依頼しつつ、ステップ3までに結論が得られるよう、今後の検討の方向性について示す。

(※) 資源状態が大幅に回復しても、生物学的許容漁獲量(ABC)は直近5年間の平均漁獲量の最大1.1倍にしかない、漁獲量を増減させる係数が1を下回るとABCが戻りづらい、等

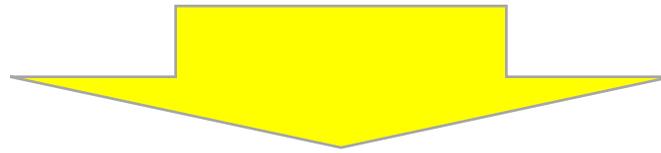
## <中長期的な課題として>

- ③ 1系ルールを導入に向けて、資源評価の高度化に引き続き取り組むとともに、1系ルールを導入に向けて必要なデータ・情報について整理し、関係者と共有する。
  
- ④ 日韓暫定水域における操業秩序の構築や、より精度の高い資源評価に向けて、韓国との政府・民間レベルでの協議を進める。

# 1. 漁獲量の報告・収集体制について

- ① 漁獲量の報告・収集体制について、関係者間で情報共有・検討する場の設定に向けて、今後の進め方について示す。

TAC管理の第一段階(ステップ1)として、  
漁獲量の報告・収集体制を確立することを目指す。



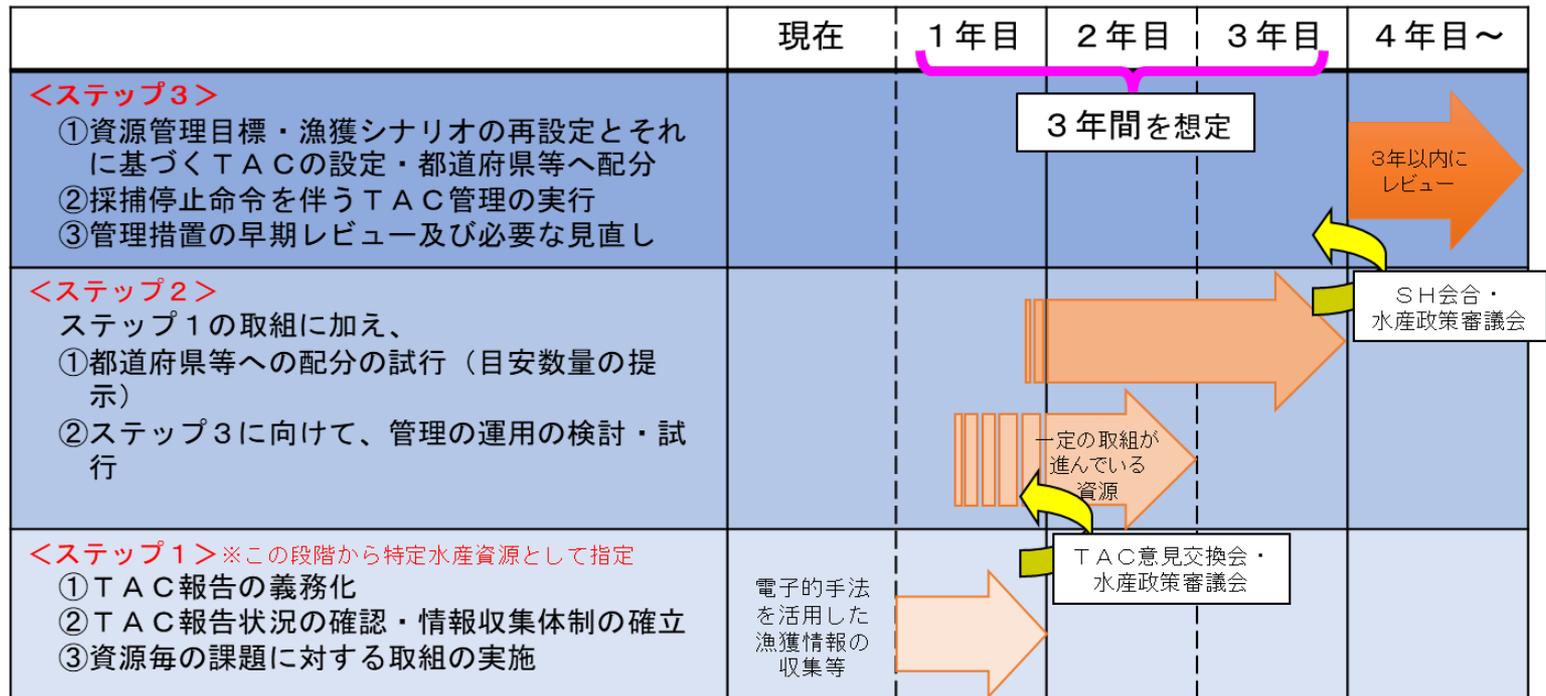
取組を確実に進めるために、

- ステップ1 **開始前**に担当者会議を開催し、**情報共有・検討を開始**
- ステップ1 **開始後**も、担当者会議を**定期的**に開催

# (参考) T A C管理のステップアップの考え方

- 新たなTAC資源については、通常のTAC管理への移行までのスケジュールを明確にした上で、TAC管理導入当初は柔軟な運用とし、課題解決を図りながら段階的に順次実施する「ステップアップ管理」を導入しています。
- 具体的には3つのステップに分けて、通常のTAC管理移行に向けたプロセスを確実に実施していきます。
- ステップ2までの取組に十分な進展があった場合に、ステップ3へ移行します。このため、ステップ3へ移行する前にはステークホルダー(SH)会合を開催し、ステップ2までにおける取組結果等を基に、資源管理の目標や漁獲シナリオ、配分基準、対象資源の特性及び当該資源を利用する漁業の実態等を踏まえた管理の内容等について意見交換を実施します(ステップ1・2で3年間を想定)。

【ステップアップ管理のイメージ】



## 2. 漁獲シナリオ(案)の特性を踏まえた管理の工夫について

- ② 提案されている2系ルールによる漁獲管理規則(案)の特性を踏まえた管理の工夫について、必要に応じて研究機関に追加試算を依頼しつつ、ステップ3までに結論が得られるよう、今後の検討の方向性について示す。

### <本資源の漁獲管理規則(案)の特性>

- ✓ 資源が良くなっても、ABCは、直近5年間の平均漁獲量の最大1.1倍まで
- ✓ 直近5年間で、漁獲実績は提案されているABCを2回超過
- ✓ 漁獲量を増減させる係数が「1」を下回ると、ABCが増えにくい

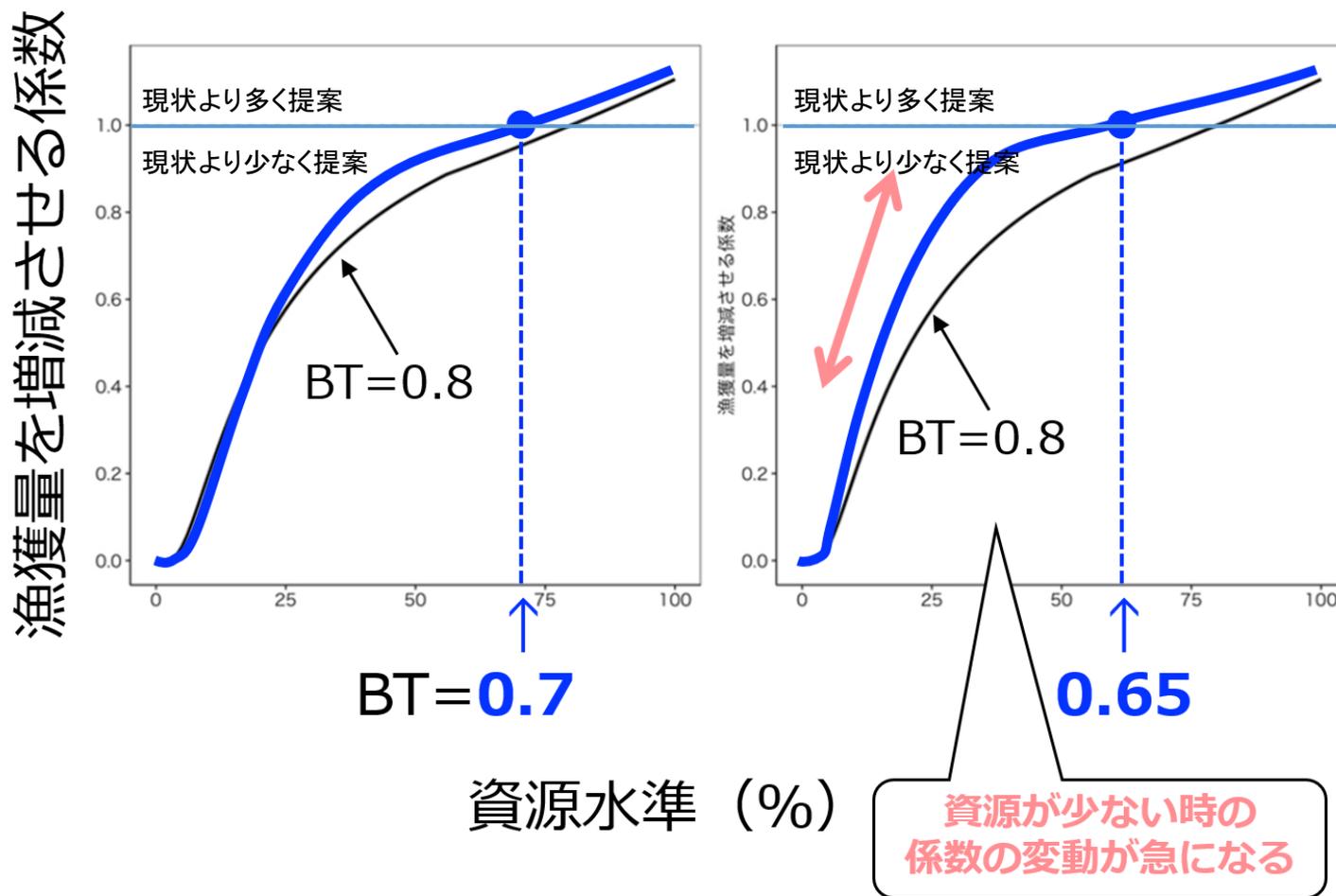
**管理の工夫**について、資源評価の高度化の進捗を踏まえつつ、研究機関の試算・助言を得ながら、「**担当者会議**」等で検討

### <管理の工夫の例> ※あくまで一例であって、今後の議論を予断するものではありません。

- 複数年でのTAC管理(※ただし、1年間のTACの上限はABCの●%増まで)
- 近年の安定的な資源状況を踏まえた適切な目標水準の設定

# 【参考】目標水準(BT)を変えた場合の変化

- 漁獲量を現状よりも多く提案できる目標水準(BT)の位置を変更すると、漁獲管理規則の形状が変わる(今回提案している目標水準はBT=0.8)。
- BTを小さくすると、漁獲量を現状より大きくできる可能性が高まる。一方で、資源が減少した場合には削減の程度が大きくなる。



### 3. 資源評価の高度化について

- ③ 1系ルールを導入に向けて、資源評価の高度化に引き続き取り組むとともに、1系ルールを導入に向けて必要なデータ・情報について整理し、関係者と共有する。

#### (1) 2系ルールの改善

- ベニズワイガニの資源状況・生態的特性を反映した2系ルールの改善の検討

#### (2) 1系ルールへの移行(MSYの推定)

- 資源量指標値を用いた資源量推定(漁具能率の把握)
- 調査拡充による不足データ(例:サイズ組成)の収集等
- 以上をもとにした、MSYの推定や適切な目標管理基準値の設定

## 4. 韓国との連携・協力について

④ 日韓暫定水域における操業秩序の構築や、より精度の高い資源評価に向けて、韓国との政府・民間レベルでの協議を進める。

- 暫定水域における韓国側の漁場占拠の問題  
→ 日韓漁業共同委員会は2016年以降、中断
- まずは資源評価に必要なデータの共有等を働きかけ
- 民間レベルの協議についても、引き続き必要な支援を実施